

## 北信地域障がい福祉自立支援協議会 議事録

### 部会名

令和4年度 第5回 幹事会

### 開催日時

令和5年3月24日(金) 14:30~15:30

### 参加者所属機関名等

北信保健福祉事務所福祉課、中野市福祉課、飯山市保健福祉課、木島平村民生課、野沢温泉村民生課、栄村民生課、高水福祉会、北信圏域障害者総合相談支援センター

### 本日のテーマ、課題等

- ①相談支援専門員の活動報告 ②第3回自立支援協議会の振り返り ③長野県自立支援協議会の報告  
④協議会だよりについて ⑤来年度の幹事会開催について ⑥来年度第1回の幹事会開催日程について  
⑦その他

会議で話し合われた事

#### ① 相談支援専門員の活動報告

##### ○療育

別紙1参照

##### ○就業・生活支援センター

別紙2参照

##### ○地域あんしんコーディネーター

別紙3参照

##### ○基幹相談

別紙4参照

#### ② 第3回自立支援協議会の振り返り

- ・各部会の活動報告。
- ・第2回に引き続き北信圏域の課題である福祉従事者の人材不足についてグループワークを行った。
- ・協議会終了後、部会長会議を開催し部会の運営や来年度の活動について話し合いを行った。

#### ③ 長野県自立支援協議会の報告

- ・各専門部会の活動報告。
- ・各圏域の地域課題の共有。

#### ④ 協議会だよりについて

- ・表題が「令和4年度版」とあるが発行するのは令和5年度になる為、別の表題が良いのではないかと  
いう意見があった。事務局で修正を行い発行の手続きを進める。

#### ⑤ 来年度の幹事会開催について

- ・事務局で案を出し第1回の幹事会でご意見を頂く。

#### ⑥ 来年度第1回の幹事会開催日程について

- ・日時：令和5年度4月19日(水) 10時45分～(※9時30分～市町村課題検討WG)

#### ⑦ その他

## 療育部門からの報告

報告者 市村 綾子

担当者 坂爪麗子、邊田卓馬、小野真奈美

## ●活動状況

◎今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によってお子さんやスタッフの参加や活動内容(おやつ、対面の座談会など)の制限は多少あったものの、療育分野としては従来に近い頻度や形での支援の機会を確保・実施出来ている印象。

◎北信病院診療関係者連絡会(通称:ほっと研)では、信州大学医学部子どもの心診療部の本田 Dr.にアドバイスをいただきながら、市町村ごとに Q-SACCS を用いた地域分析を行い、北信病院のスタッフと地域の仕組みを共有するとともに、より良い地域連携に向けての方向性の把握を進めている。市町村ごとにすぐ Q-SACCS にまとめられる体制になっていることについて、本田先生より北信圏域の強みとして評価をいただいている。12月に実施した中野市の地域分析の中では、「保護者の承諾を得た上での関係者連携」「障がい児福祉サービスの供給量不足」「学齢期における会議の目的(核)や役割分担の明確化」についての課題が抽出された。

◎高校については、特C○ではなく、担任から関係者会議の依頼があり、支援方法の共有ができたという事例が数例あった。

◎今年度の振り返りと来年度への計画を進める中で、市町村の担当者(保健師や家庭児童相談員など)から、目的にあわせた事業の実施に向けての課題や改善案といった前向きなご意見を多くいただいている。市町村主体での事業の実施や、目的やニーズに合わせた形骸化させない支援体制の継続といった視点の浸透を実感している。

## ●対応ケースの中で、困難事例・特記事例等

## 【顔の見える関係性によってチーム支援の継続に至ったケース】

◎行政(福祉課、家庭児童相談員)、保育園で、医療、福祉サービス(家庭児童相談員、事業所)など多くの機関が関わって支援しているケース。保護者は熱心であり、気になるとすぐに関係者に連絡して回るものの、話の捉えや切り取り方が独特であり、他の関係者の語った内容について歪曲して伝え、関係者間の不和を引き起こしてしまっていた。連携の困難さから療育コーディネーターに声がかかり、整理とバックアップを通して関係者間の誤解を解消し、今後の支援の方向性の統一を図っている。地域の顔が見える関係性の中で、保護者の語る関係者の言動の違和感に気づけたために、チームの修復に繋がった。

## ●地域の課題

◎保育園・幼稚園や小中学校、医療機関、地域の療育関連事業など、地域のお子さんに対する支援体制の充実や関係者の支援に係る視点の拡大などを通して、フォローに至るケースの数や手厚さは増しているものの、資源(障がい児福祉サービスの定員など)が不足しており、従来の資源にかかる負担が大きくなっている。ニーズや必要性に合わせて適切な支援が提供されるように、地域の資源の開発や既存の資源の効果的運用にむけて早急に取り組んでいく必要がある。

## 就業・生活支援センターからの報告

報告者 久保田 和之

就業支援ワーカー 湯本精一 久保田和之	生活支援ワーカー 岩下尚美
<p><b>●活動状況から</b></p> <p>経済活動が少しずつ回復する中で、主に製造業（金属、プラスチック、食品加工等）を中心に雇用ニーズが復調傾向にあり、お問合せを頂く事がある。</p>	
<p><b>●相談内容</b></p> <p>面談による相談の他、ハローワーク同行、企業訪問、職場開拓、ケア会議参加、自立支援協議会事務局等</p>	
<p><b>●対応ケースの中で、困難事例・特記事例など</b></p> <p>高齢によりこれまでのような就業継続が難しくなり、雇用事業主から相談を受けるケースがある。業務内容や雇用条件等の調整を行いつつ、退職や別の選択肢を視野に入れたご本人へのご提案や関係機関との共有を行ってきている。</p> <p>また御家族から「親亡き後の職業生活、地域生活」に対する相談も継続してあり、今後は更に地域やあんしんコーディネーターとの連携体制による支援が求められると考える。</p>	
<p><b>●地域の課題・相談内容の傾向等から</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・圏域独自の就労アセスメントについて</li> </ul> <p>地域行政や就労継続支援事業所の理解、協力の元、就労アセスメントの新しいスタイルが模索されている。事業スタイルの検証をしつつ、当事者利益が最優先となる内容を構築していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単身生活への希望からお金の使い方について相談が増えている。実際に日自を利用されている方もいらっしゃるが、収支の状況を把握したいお気持ちと理解している。</li> <li>・通院同行について。就業継続のために必要な病識を共有させていただいている。</li> </ul>	
<p><b>●その他</b></p>	

地域あんしんコーディネーターからの報告

報告者 宮崎 由美子

担当者 宮崎由美子 小林和夫

## ●活動状況から（相談件数 12月14日～3月15日）

《相談延べ件数》 92 件 《実人数》 27 人

《緊急相談》 件 4名

《空床利用》 件3名

《一人暮らし体験利用》件 3名

## ●相談内容

《相談》

- ・ 緊急時対応の説明のための支援会議参加
- ・ 80 - 50 家庭訪問

《緊急の受け入れ・対応》

- ・ 以下の事例で報告

《体験の機会及び場の確保》

・

《地域の体制づくり》

- ・ 認定事業所連携会議開催 2月7日

《専門的人材の確保・養成》

- ・ 助け合い研修実施

宅幼老所きぼう：作業療法士 大月 肇氏

NPO 法人ここから：荻原 悦子氏

## ●対応ケースの中で、困難事例・特記事例など

・ 幼少期から家庭での粗暴があり、何度も繰り返しているケース。本人の成長とともに粗暴行為がエスカレートして家族が対応に疲弊し相談になっている。効果的でスピード感のある対処や支援が困難な状況である。今後、継続的な面談や医療機関との連携をする中で家族とご本人の生活を考えていきたい。

## ●地域の課題・相談内容の傾向等から

・ 現状は医療、警察、福祉の連携でしのいでいるが、二次障害で行動障害が強化されないためには幼少期から成長後の姿を想定した連携支援が重要であると思われる。

・ 今年度はあんしんコーディネーターの定着が図れず、ご迷惑をおかけした点もありました。今年度の成果が途切れることのないよう、引継ぎをいたします。

## ●その他

今後、空床登録者のニーズについてモニタリングを行う予定。(継続)

## 基幹相談からの報告

報告者 河野 美代子

担当者 市村綾子、徳竹かず美、滝澤知紘、河野美代子

## ●活動状況

## 【委託業務】

- ・新規相談、継続相談を行う。(訪問・面談、会議、見学など実施)

## 【基幹業務】

- ・生活困窮者自立支援調整会議(飯山市・山ノ内町)
- ・相談支援専門員ネットワーク会議(月1回)
- ・指定特定相談支援事業所アウトリーチ(6事業所)
- ・市町村ケース進行会議
- ・地域活動支援センター運営会議(雁木ぶらざ・taro・デイホームこころ)
- ・新規事業所からの宣伝(訪問看護あやめ)
- ・相談支援専門員現任者研修受け入れ(3名)
- ・自立支援協議会運営(最終会ではアンケート)

## ●対応ケースの中で、困難事例・特機事例等

## 【児童サービス利用について】

・医療、教育、福祉の連携が進み、お子さんに対して早期に診断がつき、また医師、教員、家庭児童相談員からも早期に支援(サービス利用)を提案されるようになってきている。また保護者間でも福祉サービスについて情報が広がり、サービス利用を希望する方が増加傾向にある。しかし一方の受け入れ側の事業所では空きがない状態であり、また空きがあっても支援者不足により受け入れが難しい状況が出てきている。そのための対応として、保護者に制度説明を行う前に関係者会議を持ち、「支援の必要性」「支援導入のタイミング」「サービス以外の代替え案」など話し合い、支援を必要とするお子さんにしっかり支援を届ける工夫を行っている。

## ●地域の課題

・児童のサービス利用希望者増加傾向にあるが、事業所では空きがなく、予約が入りにくい状態であり、保護者をはじめ家庭児童相談員、計画相談員、事業所等の関係者も困っている。その状況を受けて、サービス向上部会(キッズねっと)では事業所や計画相談員に対して実態調査を行い課題把握した。それらの内容を来年度、そだちネットワークとも共有し課題検討していく予定。

## ◎本日の幹事会で検討・ご意見等頂きたい事項(各部門からの報告を通じて)

・指定特定相談支援事業所に繋ぐ新規相談については、以前よりスムーズに受け入れて頂けるようになってきている。北信地域における指定特定相談支援事業所の状況については別紙参照。